

令和4年度の学校評価

<p>本年度の 重点目標</p>	<p>(1) スクールミッション及びスクール・ポリシーを基軸に全ての教育活動への反映 (2) ビジネス社会を意識した規範意識の醸成と基本的生活習慣の確立 (3) 新学習指導要領に対応した授業改善と評価の確立 (4) 一人一台タブレットを中心とした ICT 教育のさらなる推進 (5) 継続的なキャリア教育の策定と実施 (6) 令和5年度の単位制導入、学科改編に向けた包括的準備 (7) 定時制校日の有効活用と平素業務の効率化に向けた業務改善</p>		
項目 (担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
<p>総務部</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・儀式や管轄業務について計画的に企画・立案した上で、安全かつ円滑に遂行できるようにする。 ・PTA役員、委員との連携を図りながら、主体的なPTA活動になるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各組織と連絡・調整を図り、共通認識のもと、儀式や管轄業務の遂行が円滑に運営できるようにする。 ・PTA役員、委員との連携をさらに図り、PTA役員・委員の活動をしやすいようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前確認をし、コミュニケーションを取って活動を進めた。2学期終業式からは、体育館で集会による実施をすることができた。 ・PTA役員を中心に連携して、負担にならないPTA活動を実施した。3年ぶりに文化祭でPTA企画を実施することができた。
<p>教務部</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度からの全日制単位制高校に向けた準備 ・スクールエンジンの導入と活用 ・観点別評価の実施と評価方法の確立 ・生徒の読書活動の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程に関する事項を準備する。 ・スクールエンジンによる成績処理、指導要録の作成、調査書の作成方法を確立させる。 ・観点別評価の用の成績処理科関係の書式作成と周知・改善。 ・図書委員会(生徒)による図書館だよりの定期的発行を行い内容の充実をはかる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・やや計画から遅れてしまったが、概ね令和5年度に向けた教育課程、内規などの変更、学校設定科目の届出など進めることができた。 ・校務支援システムの変更により、手探りでの活用方法の模索となったが、マニュアルを作成しながら活用を進めることができた。 ・観点別評価を一定のルール内で進めることはできたが、授業改善と合わせて、適切な評価方法について検討していきたい。 ・図書委員による図書館だよりの作成をして、生徒に図書の利用を促すことができた。
<p>生徒指導部</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的生活習慣の確立 ・令和5年度以降の生徒指導規定全般の検討 ・令和6年度以降の修学旅行の検討 ・委員会活動の見直し ・支援が必要と思われる生徒への他分掌と協力した援助・指導 ・外国ルーツを持つ生徒に対する異文化理解も含めた指導体制の確立 	<ul style="list-style-type: none"> ・常習的な遅刻者に対する効果的な指導法の検討をする ・新校での生徒指導規定全般を検討する ・宿泊行事等幹事委員会による令和6年度以降の修学旅行の在り方について検討する ・生徒会部とも連携し、生徒指導管轄の委員会組織を見直す ・学年、相談部、保健部と情報を共有し、連携した指導の実施 ・関係部署と情報を共有するとともに、個別のヒアリング等を実施し、相互理解を深める 	<ul style="list-style-type: none"> ・遅刻については、昨年度より増加している。一部の常習的な遅刻をする生徒が遅刻数を増加させており、事前の声かけや他の生徒とは違う方法での指導等の工夫もしてきたが、精神的な面で不登校傾向の生徒も多いため、効果的な指導が難しい状態である。 ・制服を無くしドレスコードを設けホームページに掲載している。それに伴い身分証明書のカード化や専用ネックストラップの導入、生徒手帳からスケジュール手帳への変更を進めた。また、その他の規定については生徒指導要領の改訂にも合わせ、現在見直しを進めている。 ・令和6年度(令和5年度入学生)以降3年間の修学旅行について、宿泊行事等幹事委員会で慎重に検討し、キャリアビジネス科として特色をもたせた関西方面への修学旅行を決定した。 ・生徒会部とも協議し、現在、生徒指導部主幹委員会としての「交通委員」・「風紀委員」を一本化し、「生活委員」に変更する。「生活委員」としては、生活安全・交通安全・災害安全の学校安全全般について活動を進めさせる予定である。 ・各学年会により生徒状況の情報を共有し、指導にあたることができた。特に、見聞録や精神的に不安定な生徒に対する指導に関しては、相談部・保健部とも情報を共有し、連携を取ることができた。 ・外国ルーツをもつ生徒が、宗教・文化的な理由により、校則に一致しない部分がある場合の申告が今年度もなかったが、引き続き継続課題としていきたい。

項目 (担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
進路指導部	<ul style="list-style-type: none"> 生徒個々の進路実現に向けた進路指導の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 成人年齢引き下げに対する対応 (民間幹旋業者参入対応を含む) 進路選択の充実 コミュニケーション能力・マナーの向上 タブレット利用による求人票の閲覧 関係分掌・学年・教科等との協力推進 	<ul style="list-style-type: none"> 18歳成人となった学年であるが、今までと同様の指導で対応することができ、問題なかった。民間幹旋業者の利用もなかった。 就職、進学希望者ともに進路指導部の各担当者が個別面談を充実させ、希望進路の実現に向けサポートすることができた。 日常生活時、進路室利用時等で、言葉づかい、コミュニケーション能力、マナー向上の指導を心掛けた。 求人票のPDF化を行わず、タブレットで求人票を写すことを認めた。多くの生徒が活用していた。ただ、進路室へコピーに来ることで、生徒の希望状況等がより良く把握でき、生徒の適性合った企業等を紹介できるので、PDF化にこだわらなくても良いようにも感じた。 調査書の作成等、ソフトウェアがスクールエンジンに変更となったが、教務部との連携でスムーズに移行することができた。3年学年団とは、その場に応じ、臨機応変に話し合うこともでき、円滑に進めることができた。商業科の課題研究 (総合ビジネス科・情報処理科)・総合実践 (国際ビジネス科) の時間での履歴書の書き方の指導は大変良かった。
保健美化部	<ul style="list-style-type: none"> 心身ともに健康な生徒の育成 緊急時に備える体制の確立 美化意識の向上及び清掃活動の充実とゴミの減量化 感染症予防の徹底 	<ul style="list-style-type: none"> 委員会を随時開催し、各クラスでの問題点や改善点などの情報交換を充実させる。 救急法講習会を充実させ、緊急時に備える。 環境美化意識が高まるような方策を検討する。特に衛生設備を重点に環境整備や美化に努める。 生徒、教員一人一人が自発的に感染症予防に取り組めるように働きかける。 	<ul style="list-style-type: none"> 保健委員会を中心に「睡眠」と「ストレス解消法」についてアンケート調査を行い、保健室前に掲示することで、自分の生活を見つめ直す良い機会となった。 早い時期に救命救急法講習会を実施し、緊急時の適切な行動について確認することができた。 エビペン対応マニュアルを作成し、職員室や保健室、体育準備室に設置した。 部活動の生徒を対象にAED講習会を実施した。生徒の取組姿勢がとても良く、今後も実施していきたい。 「環境月間運動」の一環として、昨年度の美化委員が企画した「黒密運動」に今年度も多くの生徒が参加し、環境整備の必要性について考える機会となった。 各学年と連携し、学年清掃を実施した。ほとんどの生徒は熱心に取り組んだが、一方で、ゴミを不法投棄する生徒も見られ、多様化する生徒に対する効果的な指導方法を検討していく必要性を感じた。 各学年と連携し黙食指導を行った。今後の状況を鑑み、どのような指導方法が適切か、引き続き検討していく。
生徒会部	<ul style="list-style-type: none"> 感染症対策を意識し、生徒が充実感や達成感を得るような生徒会行事の実施 感染症対策を意識し、校種間交流をすすめ、共生社会への意識づけを行う 部活動の活性化 	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事において生徒会執行部が中心となり、生徒自身が学校行事の運営にあたるよう、各種委員会を中心に組織を構成する。また、必要に応じてICT機器を活用し、各行事の分散開催を行う。 社会情勢を鑑みて、港特別支援学校との交流教育をすすめ、学校行事や共同学習を企画、実施する。 令和5年度からの学科改編へ向けて、部活動を改編、精選し、より生徒の積極的参加を促し活性化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 予定したすべての行事を、感染症対策を意識しながら実施することができた。各行事の制限を含め可能な限りコロナ前に近い状態で実施した。 新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、校種間交流を実施することができなかった。 各部活動の生徒の参加状況や意欲、改編後の校内における必要性を考え、段階的に進める方針を固めた。

項目(担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
相談部	<ul style="list-style-type: none"> 落ち着いた学校生活が送れるように、必要な支援や精神的サポートを行う 	<ul style="list-style-type: none"> 迅速で丁寧な対応を目指す。 心理検査を実施し、思考特性を把握する。 年2回程度精神健康調査を行い、各クラスの状況を把握する。 学校内外の連携をスムーズに行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 保健室と連携を取ることで、メンタルに不調のある生徒の早期把握とSC等への連携が強化できた。 今年度心理検査を変更することにより、生徒が返答しやすくなった。 精神健康アンケートをSCと確認することにより、より多くの視点から生徒を見守ることができた。 SCやSSWと情報共有しながら児童相談所や子ども若者総合相談センター等と連携を強化することができた。
教育情報部	<ul style="list-style-type: none"> 生徒用タブレット適切な利用促進 ICT活用の促進 	<ul style="list-style-type: none"> ルールブックを定着させ、適切なタブレットの利用を行う。 教室等の環境整備を実施する。 現職研修を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ルールブックを活用することで適切な利用を促すことができた。 授業を実施するすべての教室にプロジェクタ、スクリーン等を設置し、タブレットを気軽に使える環境整備をすることができた。 現職研修の実施に加え、全教員のICTを活用した研究授業を実施し多くの教員がスキルアップすることができた。
1年生	<ul style="list-style-type: none"> 豊かな人間性の育成 基本的な生活習慣の確立 基礎学力の定着 	<ul style="list-style-type: none"> 学校生活をととして、自立した大人として必要な人間性を高める。 衣食住の生活リズムを整え、時間や約束を守らせる。 朝学習や授業をととして高校生として必要な基礎学力の定着をさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> なかなか家庭からの協力を得られないことも多く、欠席が目立つ生徒もいて、結果的には多くの転学・退学者が出てしまった。 時間や約束を守らせる取組を学年で行った。今後も継続的に行っていく。 朝学習では、週2回スタディサブリを利用して基礎学力の定着を目指したが、もう少しスタサブの活用の仕方を検討する必要がある。また、授業中の安易な途中退室が目立ち、その結果授業の遅れにつながる生徒も見られた。担任、学年だけの問題ではなく、安易な途中退室を防ぐ策を学校全体で考えていくべきではないか。
2年生	<ul style="list-style-type: none"> 人間力を高める 基礎学力の定着・向上 	<ul style="list-style-type: none"> 学校生活をととして社会人として必要な人間性を高める。 朝学習や授業をととして、高校生として必要な学力を身に付けさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 校外での学校行事をととして、挨拶や礼儀など社会人として必要な資質を身に付けることができた。学校行事のなかで、生徒間で揉め事も起きたが、お互いを尊重し解決に向かう姿勢が見られた。 スタディサブリの継続導入により、学習習慣は確立することができた。しかし、学力の定着までには至らない生徒も多い。 スタディサブリでの朝学習をより充実したものにするために、朝学習の補習や再実施など「やっつけあい」のような形でのものにならないよう指導する。
3年生	<ul style="list-style-type: none"> 進路目標の実現 社会に通じる人間力の育成 基礎学力の向上 	<ul style="list-style-type: none"> 進路指導をととして自己理解を深め、進路目標の実現に向けて粘り強く最後まで努力させる。 学校内外の授業や活動をととして社会に求められる人間力を育成する。 朝学習や授業をととして社会人として必要な基礎学力を身に付けさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 進路指導部を中心に、担任・副担任と連携して進路について考え、進路実現に繋げることができた。 課題研究や行事などを通じて、外部と連携して行う活動ができた。活動を通じて、社会人として必要となる資質を学ぶことができた。 朝学習は3年間継続したことで、与えられた課題に加えて、集中して取り組む姿勢を養うことができた。また、率先して自ら学習を行う力を身に付けることができた生徒も多い。
学校関係者評価を実施する主な評価項目	<ul style="list-style-type: none"> (1) 教育活動全体をととして、基本的な生活習慣の確立・基礎学力向上に向けた取組を実施することができたか。 (2) 外部との連携や地域活動をととして、地域に貢献され必要とされる学校づくりを進めることができたか。 (3) 本校スクールポリシー及び重点目標を基に、教科・科目の視点から魅力ある商業教育が実践できるよう取り組めたか。 (4) 人権教育並びに情報モラル・いじめ防止策に関する具体的な取組について、確実に行うことができたか。 (5) 定時制校日の有効活用を含め、時間を意識して業務を進める意識改革を推進できたか。 		